

## インターバンクの声（2017年1月11日）

連休明けの東京市場の昼過ぎに付けた115円台前半の安値からは徐々にドルが買い戻され、海外市場では116円台に戻っていたドル円だが、トランプ次期大統領の記者会見に対する警戒感が広がり始めていることから再びドル売り圧力が強まっている。

この記者会見は、日本時間で明日12日未明に始まるが、もともとは米国内外で不動産ビジネスを手掛けるトランプ氏の事業と大統領職の利益相反を心配する声に応えるために昨年12月に予定されていた会見が延期されたものだ。当初は、利益相反と事業運営に関わる説明をするのが目的だったが、経済や外交などの政策を含む「一般的な記者会見」に切り替わったことで、会見への金融市場の注目度と警戒感が広がっている。

大統領選挙以降、トランプ氏からの情報発信はツイッターを中心としたインターネット経由で、マスコミへの不信感が強い同氏の生の声による今回の会見では思わぬ失言などで、これまでの期待感が薄れる可能性もある。トランプ氏が会見を上手く乗り切れば期待感がさらに高まるだろうが、逆の結果となれば115円割れは必至となりそう。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。